

## 鶴岡首席交渉官によるぶら下がり記者会見の概要

日時：9月3日（水）08：55～09：00

場所：JWマリオットホテル（ハノイ）

### 【質疑応答】

（記者）今日から首席交渉官会合が始まるが、会合に向けての意気込み如何。

（鶴岡首席）

オタワで首席交渉官会合を行ってから2か月近く経っているが、その間、各国は国内の調整、二国間あるいは複数国間での協議も含め、色々な準備を十分行った上でこの会合に臨んでいると思う。私もハノイ入りしてから各国の首席交渉官と色々な接触を行った結果、各国ともこの会合で大きな成果を実現し、TPP交渉の終結に向けたきっかけにしようという意欲を持っていることが確認されたと思っている。我が国もハノイにおいて実質的な進展を実現し、政治的な決断ができる準備を十分整えたうえで、TPPの早期終結、妥結に向けて努力したいと思っている。

（記者）

今回の会合は難航している分野をかなり議論することになると伺っているが、その難航分野で歩み寄ることができるか、溝を埋められるかについてはどうお考えか。

（鶴岡首席）

まだ会合は始まっていないので、これからの中身によると思うが、状況全体をみれば、TPPをできる限り早期に決着させなければならないという意識は各国から強く感じられる。そういう意識を背景とすれば、確かに残された問題は困難なものが多いし、政治的な関与も不可欠になっているが、その成功に向けて今回、最大限作業するという点では、各国の見解は一致していると思う。交渉は最後の段階になると政治的な課題、あるいは技術的にも新たに困難な課題が出てきて、様々な意味でより大きな困難が待ち受けているので、このハノイの交渉官会合を活用し、そういった困難さをどれだけ噛み砕き、それが解決に向けた作業につながることを確保するかが課題だと思っている。残されている困難な課題というのは国有企業の問題であるとか、知的財産の問題であるとか、市場アクセスの交渉であるとか、決して少なくないし、容易でもない。しかし、先ほど申し上げたTPPの早期妥結という目標については各国一致していると我々は思っているし、その実現に向けて我が国も全力を挙げて努力をしたい。

（記者）

日米の農産物の協議が9日、10日に予定されているが、日米の決着が見えてこない各国もなかなかカードを切りづらいのではないかという指摘もあるが、その点についてはどうか。

(鶴岡首席)

日米はTPP域内で8割近いGDPの比重をもっており、TPPの中では2つの大きな経済である。そういう客観的な事実からしても、日米間で合意がみられるということはこの交渉をまとめる上で不可欠なことと思う。また、各国それぞれが二国間の交渉を進めているが、それぞれがお互い関連する内容を持っているので、当然のことながら日米交渉が進展しなければ他の交渉もなかなか進まないという実態があるということは各国とも共有している。他方、日米の交渉はこれまで着実に進んできており、今後新たな交渉を行った上で日米間でも決着することが期待されているので、ここに来てから各国から聞いているところでは、日米の進展を歓迎している、それを踏まえながら日本との間の交渉も進展させたいという意欲と期待の表明があった。日米の決着には時間がかかるかも知れないが、それがここでの交渉全体を進めることに影響することはないと思っている。

(以上)